

No.		特に良いと思う点	
1	タイトル	一人ひとりの子どもの気持ちを受け止め、発達特性に応じた丁寧な療育を、チームで一体となって実践している	
	内容	個々の子どもの発達に応じた療育を目指し、職員はチームでの支援を大切に丁寧な関わりをしている。発達特性に応じたコミュニケーションの取り方を工夫し、言葉の理解がわかる子には、側に行き、小さめの声で、目を見ながら話しかけている。早口にならないよう配慮し、ゆっくりと穏やかに分かりやすく伝えている。全体の子どもへの声かけは元氣よく楽しく話すなど、バランスを取った対応をしている。活動後はクールダウンの時間を設け、リラクゼーションの曲をかけ心を落ち着かせている。子どもが抱かれるのを望めば叶えるなど気持ちを受け止めている。	
2	タイトル	知識と経験のある職員が、社会福祉協議会のネットワークを活かしながら、多様な地域のニーズに応えている	
	内容	事業所では、子どもの言語相談訓練や、3歳児から未就学児を対象にした児童発達支援事業を実施している。さらに、新たな地域のニーズに応える取り組みも実施している。落ち着きがない、授業がむずかしい、集団になじめない、言葉が遅いなどの発達支援相談や、特別な支援が必要な子どもが利用している保育所など訪問し、楽しく集団生活が送れるようにする保育所等訪問支援のほか、保護者支援、研修・啓発活動、情報発信などに取り組んでいる。知識と経験のある職員が、社会福祉協議会のネットワークを活かして多様な地域のニーズに応えている。	
3	タイトル	職員や保護者、専門職との情報共有により、子どもが落ち着いて過ごせる環境をつくり、いきいきと感情を表出することができる	
	内容	日々の申し送りや引継ぎ、職員会議やケース会議、保護者との個別面談等で、職員間や、職員と保護者間で密に情報共有をしている。保護者と職員、及び職員間で情報共有がしっかり取れていることで、子どもが落ち着いて過ごせる環境が作られ、一人ひとりがいきいきと遊ぶことができ、様々な感情表出や自己表現をすることができる。作業療法士や理学療法士、言語聴覚士や音楽療法の先生などの専門職プログラムを実施し、そこで情報共有も、発達に課題のある子どもたちへのアプローチ方法として活用されている。	
No.		さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	職員の負担軽減や業務の効率化を通じて、職員に魅力のある職場環境を作っていくことに期待したい	
	内容	職員の平均在職年数が長く、年齢も高くなってきている。今後、世代交代の時期を迎え、若い人材の確保が課題となっている。また、今回の職員自己評価結果では、「時間内に業務が終わらない」といった意見も見られた。職員の負担の軽減を図りながら、若い職員が魅力を感じる職場環境を作っていくことが必要になってきている。職員全体で、業務の効率化や職員の負担軽減につながる検討を進めていくことに期待したい。また、ICTについても積極的に検討していくなど、今後のさらなる検討に期待したい。	
2	タイトル	年2回ケース会議や個別面談による振り返りを行い、個別支援計画を作成する流れができており、今後もその流れの定着に期待したい	
	内容	新入園児の場合、3月中に家庭訪問や保護者との面談を行い、個別支援計画を作成し、4月から支援を開始している。ケース会議で、振り返りを行い、3月と8月に保護者との面談を行い、個別支援計画作成し、または修正し、4月と9月から新しい計画のもとに支援する流れが出来ている。以前は3学期制をとっており、スケジュール調整が難しいことがあったが、数年前から、2学期制をとることで、個別支援計画内容の作成や見直しができるようになってきている。モニタリングから計画の、一連の流れを定着させていくことに期待したい。	
3	タイトル	充実した集団遊びのあそびの手引書の作成や、玩具類のリストを作成し、後進につなぐことに期待したい	
	内容	集団遊びでは、運動遊びや感触遊び(寒天あそび・小麦粉粘土・ボディペインティング等)、ペーパーサート、パネルシアターを使ったお話など、子どもが興味を示し、集中できる遊びを提供している。遊びを考案する際、職員は阿伴の呼吸で遊びの内容提示を理解している。しかしながら、こうした遊びを継続させるために、活動内容を簡潔にまとめた「あそびの手引書」のようなものを作成し、誰でもいつでも参考にできるようにしていくことに期待したい。あわせて、今、使用している玩具類もリスト化して把握しやすくすることも期待したい。	